

プロフィール（自己PR）

シンガポールにあるインターナショナル校を国際バカロレア資格で卒業。福岡市の西南学院大学に帰国子女枠で入学し、九州の私学で初めての帰国子女となりました。海外と日本との教育環境の違いに戸惑いましたが、この違いが私の教育に対する思いにつながっていることは間違いありません。

また当時、パソコンによる「情報処理」が経理や会計処理に通じるため、科目として商業高校に導入された時期でした。私の通った西南学院大学でもプログラミングやAI言語といった理系に近い研究をするゼミが商学部開設され、IT系分野に興味があった私はそのゼミに入り、プログラミングのCOBOLやAI言語を学びました。高等教員免許取得で必要だった教育実習は、福岡市にある商業高校の情報処理科で行い、その後もパソコン指導員として高校生たちと触れ合い、教えることの楽しさを経験しました。

大学卒業後は、スーパーコンピューターを導入したリクルートに就職しましたが、文系ということで配属は雑誌の営業や編集部門、また英語力を必要とした海外旅行情報誌の海外企画営業部でした。当初の私の思いとは違うキャリアを歩むことになったのですが、振り返るとこれも本当にさまざまな仕事を経験する貴重な機会になりました。

起業のきっかけは、2001年のアメリカ同時多発テロ事件です。混沌とする世界でもっと未来を創る仕事をしたいと考えるようになりました。そして2004年に早期定年制度で退職し、子どもの本と教育を考えるマイティブックを設立。以来、海外と日本の子どもたちの橋渡しを行っています。これまでに訪問した国は45か国以上になりますが、現地の皆さんと接し役立つ情報を得る機会も多いため、専門メディアや新聞に記事を書くジャーナリスト活動も開始。近年はさらに活動範囲を広げ「子どものための編集講座」など、子ども向けワークショップを関東圏で展開。中野区ではNPO中野こども空間の活動で同プログラムを実践しています。そのような取り組みの中で、地元中野区の「子どもの未来を創る教育」の可能性を感じ、もっと追及したいと考えるようになりました。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題）サイエンス教育

について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

日本では受験対応のため理系、文系に分かれた教育が定着。しかし、子どもたちが課題解決に必要な能力を養うために必要なのは、双方の視点です。

- ・双方の視点を持つ探求学習や情報の教科に役立つガイドブック作成
- ・中野区内にある施設や学校で双方の視点を持つ「ワークショップ」を実施
- ・世界の子どもたちと一緒に社会課題に取り組む機会の提供

2.（課題）不登校

について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ・不登校児童生徒への対策として／SSWやSCの活用 推進
- ・学校が楽しいと思わない理由のリサーチ／「行きたくなる学校について」をまとめ、状況改善に役立てる

3.（課題）

について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

氏 名 松井 紀美子

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

主に読書活動からになりますが、教育について20年以上世界と日本を見て参りました。そして感じるのは、子どもたちの素直な興味や好奇心をアカデミアにつなげるところが海外は上手だという点と地域の教育活動の重要性です。そんな観点やこれまでの私の経験から、役立つ事例やアイデアを中野の教育委員として学校や児童生徒に伝えることができればと思い応募をさせていただきました。特にサイエンス分野は、大学や施設、民間の教育機関など中野の環境からポテンシャルを感じています。サイエンスを文化にした取り組みで、中野の子どもたちの未来が広がることに期待しています。